

2011年8月5日

ロシア関連メモ 077

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野 雅人

ロシア 2012 年問題関連(3):『メドベージェフよ、今こそルビコンを渡れ』

1. 解説

現代発展研究所（Институт современного развития : Institute of contemporary development : INSOR）（以下「INSOR」）のイーゴリ・ユルゲンス所長とエフゲニー・ゴントマヘル理事が連名で Vodemosti（2011年7月27日掲載）に投稿した論文「メドベージェフよ、今こそルビコンを渡れ」（《Медведеву пора перейти Рубикон》）の内容を紹介する。

これまでもロシア関連メモで報告してきた通り、2012年のロシア大統領選挙にメドベージェフ大統領とプーチン首相のいずれが出馬するのか、誰が大統領となり国家をどのような方向に導くのかという「2012年問題」については、未だ両氏のいずれからも出馬表明がなく、それぞれの発言や行動が様々な憶測を呼んでいるところである。従来は今年の中頃までには2人の間で話し合いがなされ立候補者が一本化されると見られていたが、最近では今年12月の下院議会選挙後まで現在の状況が続くのではないかとの見方が支配的になっている。

その中で今回公表された INSOR のユルゲンス所長とゴントマヘル理事による論文は、メドベージェフ大統領支持の立場から、同大統領に対し今すぐに出馬表明を行うことを強く求める、いわば檄文とも言える内容となっている。

論文では、プーチン首相側が主張する「安定」路線は国家の衰退につながり、メドベージェフ大統領が不出馬を表明しただけで株価暴落、資本流出、人口流出などが発生し、ロシア経済は危機に瀕する恐れがあるとしている。それを回避してロシアを停滞から救い出すためにはメドベージェフ氏が次期大統領となって近代化を進めていくとの決断、すなわち「ルビコン川を渡る」ことが今こそ必要だと主張している。論文にも書かれているようにプーチン首相側は「全ロシア人民戦線」結成等、自らの支持基盤固めの動きを強めているが、そのような動きに対しメドベージェフ大統領のブレーン集団と言われる INSOR の2氏が、態度を明確にしないメドベージェフ大統領に対してもはや黙ってはいられないという気持ちを強く滲ませている印象を与える。以下、論文の仮訳を掲載し、同論文に対する評価及び2012年問題を巡る状況については別稿にて報告する。

2. 抄訳・仮訳

ロシアが民主的な方向に全く進んでいないでないという事実は、現在の政治体制の設計者にさえ明白なことである。このことは2012年大統領選の候補者を出す今の手続きを決して正当化するものではない。「時が来たら、我々は相談して決定する」¹がどのように行われるのかについては多くのことが語られている。だが、ここで重要なことは、ロシアの政治的エリートがその決定に黙って従おうとしていること自体、ロシアが近代的政治的発展の点においていかに遅れているかを示しているということだ。

このところ「タンデム」²の一方が「安定」政策を掲げた政治キャンペーンを開始すべく盛んに活動している。その「安定」とは、我々が置かれた特殊な状況においては（2000年代の危機前の時代に我々が経験した）停滞のみならず、ロシア人の生活のあらゆる面における明らかな衰退と同義である。これこそが全ロシア人民戦線³（これは明らかに東ドイツの人民戦線を真似ようとしている）を産んだものであり、経済的支援の裏付けのないままに社会の右から左まで様々な約束を振りまこうとするものである。

では、タンデムのもう一方の大統領側は何を言っているのだろうか。大統領は汚職と戦い、ビジネス環境を改善し、効果的な外交政策を形成することで状況を衰退から前進へ変えようとしているように見える。だが、まだ何のブレークスルーも起こっていない。ドミトリー・メドベージェフの近代化への道は最初の段階から忘れ去られたか、あるいは抵抗勢力によって拒絶されてしまったかのような印象さえ受ける。

我々はいかなる個人崇拜にもヴォジュディズム⁴にも断固として反対する。

ゆえに、我々は、近代化の必要性を主張しているとかINSOR評議会議長であるといった理由だけで「タンデム」の一人にしがみついてもいいはずはない。むしろ我々は「タンデム」内部で何らかの決定的な会話が行われるのを待つのではなく、彼が現状維持を主張する者達や国家を民営化した腐敗者達の恐るべき妨害を乗り越えて、国家を救うための真の第一歩を踏み出すための方策を見出すことを支援するための行動を起こさなくてはならないと考えている。

¹ 2012年の大統領選挙に、メドベージェフ大統領とプーチン首相のどちらが出馬するのかという質問に対して両氏が決まり文句のように答える言葉。

² 言葉の元々の意味は直列二頭立ての馬車のこと。メドベージェフ大統領・プーチン首相の指導体制を指す。ここで言う「タンデムの一方」とはプーチン首相を指す。

³ プーチン首相は5月6日にボルゴグラードで開催された「2011年~2012年の南ロシア発展戦略」に関する与党統一ロシア地域間会議において、12月の議会選挙に向けて「全ロシア人民戦線」（Общероссийский народный фронт : All Russian people's front）を結成することを発表した。これは議会選挙における統一ロシアの候補者リストの母体となる組織体で、党員のみならず企業団体、労働組合、NGO、個人など幅広い層の参加を求めるものである。詳細については、ロシア関連メモ No.67 「全ロシア人民戦線構想とその評価」（2011.5.11）http://www.cipps.org/group/russia_memo/067_110511.pdf 及び同 No.68 「全ロシア人民戦線関連（その2）」（2011.5.18）http://www.cipps.org/group/russia_memo/068_110518.pdf 参照。

⁴Вождизм。ロシアの政治用語。個人による強力なリーダーによる絶対的な政治を指す。

そこで1つの疑問が生じる。もしドミトリー・メドベージェフが国民に知らされない何らかの理由で2012年大統領選に立候補しないことを決定したら、一体何が起こるだろうか。現大統領がその職務を続けないことを決めたという事実だけでも我が国に重大な危機が発生することは間違いない。悪名高い「メチェル事件」⁵でさえ、その時起こるのであるロシア株式市場の大暴落と比べれば些細なものとなる。ロシアから資本と人口の大流出が起きる。そして恥ずべき汚職と国家の国民に対する否定的態度によって長い間踏みにじられてきた国民の正義感は、マネージ広場⁶で見られたような過激主義的暴動につながる恐れさえある。脆弱な経済は破綻し、社会保障給付の基盤も崩壊する。既に始まっている教育と医療の無償原則崩壊の流れが広がり、年金支出も大幅に削減される。そのような状況において権力を維持するために、政府は我々の同盟諸国のパートナーと同じように政治体制への締め付けを更に強めるだろう。これが「安定」のための政治の代償である。そのような政治的、経済的、社会的破局を引き起こすに、プーチンは直接大統領府に復帰する必要はない。ドミトリー・メドベージェフを追い出し、首相周辺の第三者を大統領に据えるだけでいいのだ。

現大統領の政治的運命は彼の個人的問題でも「タンデム内の」だけの問題でもない。この国に真の21世紀をもたらす鍵が事実上彼の手に握られている。その意味において、我々はロシア国民の一人として、誰が我が国の次の大統領になるかということに対して曖昧な態度を取る訳には行かない。我々はこの死活的に重要な問題の答えを出さなくてはならないだけではない。その答えは12月ではなく今すぐ必要なのだ。

我々はドミトリー・メドベージェフが2012年から2018年の間、ロシア大統領として国の運命に対し政治的責任を取るべきことを主張する。

ここでまた1つの疑問が生じる。メドベージェフ以外の誰かがロシアにおける改革者の役割を果たすことができるだろうか。悲しいかな現在のロシアの政治システムにおいては、我々は異なる近代化プログラムを持つ2人のリーダーのうち1人を選ぶのではなく、鋭く個人と結びついた2つの道のうちいずれかを選ばなくてはならないのだ。その選択肢とは、停滞、衰退、不可避的な国家的災害と同義語である「安定」と、非常にリスクは高いが、全く望みが無いという訳ではないプロジェクトと同義語である「近代化」である。そしてこの2つ目の道を実現するために、この国のために前進したいと思う人々のために競争力ある環境を造らなくてはな

⁵ メチェルはロシアの鉄鋼大手企業。2008年にプーチン首相が、メチェルが鉄鋼価格吊り上げを行っていると強く避難したことで、同社の株価が暴落したことを指す。

⁶ 2010年12月11日、クレムリンや赤の広場に隣接するマネージ広場で約5,500人のサッカーファンが暴徒化し、広場にいた北カフカス人のグループを襲撃、警官隊と衝突した事件が発生した。12月初めにロシア人サッカー選手イゴリ・スヴィリドフ氏が北カフカス出身者に銃殺された事件があり、当日は同氏の追悼集会が行われていた。集会には過激な愛国主義者やネオナチのグループが参加しており、それらの者が騒乱を先導したとの疑いが持たれている

らない。自分や親族や友人達のために利益が上がるビジネスを温存しようとする人々は必要無い。

さらに疑問が生じる。もし、ドミトリー・メドベージェフが求められる方向へ一歩を踏み出したとき、誰が彼を支持するのだろうか。それはもちろん特定の人物や有力者ではない、近代化のための国民連合の形成である。この点に関して、見通しはそう悪くはない。

「安定」主唱者が勝利した場合に起こるであろう経済崩壊への危惧から、これまで声を上げてこなかった大企業が我々の同盟に加わるだろう。中堅中小企業への行政的圧力の緩和（既に今年から行われている）によっても、このセグメントの支持が広まるだろう。

さらに進歩的な大学や研究機関も同盟予備軍である。そこにはロシアの知的エリートや最も才能ある若者達が集まっている。彼らは本質的に国の状況を危惧している。具体的な措置と明確なプログラムを以て近代化を進めて行けば、無関心ではない層の人々の間に熱意が伝わっていく。我々の調査によるとそのような人々は人口の 15~20%存在する。

残されたことはただ1つである。ドミトリー・メドベージェフは彼のルビコン川を渡り、社会に対し、今陥っている泥沼からこの国を引き上げるという困難な課題に自分と共に立ち向かおうと直接呼びかけなくてはならないのだ。そして、その呼びかけが成功するように、国家と社会との間のパートナーシップメカニズムの構築に今すぐ着手することが絶対的に必要なのである。そこで重要なことは国家の分権化であり、真の報道の自由（テレビ放送局の創設も含む）であり、政党及び NGO 規制の自由化であり、何よりもドミトリー・メドベージェフによる社会との対等で率直な対話である。

我々はロシアの豊かな未来を信じている。

以上